

キャラクター名 クルーデリス・トゥディエネ  
 プレイヤー名

種族	ドレイクナイト	種族特徴	暗視、魔剣、飛行、竜化、光のプレス、弱点(魔法+2)		
生まれ	部位操者	性別	男	年齢	不詳
冒険者Lv	15	経歴	友にとどめを刺した		
経験点	0		長年幽閉されていた 正体をなるべく隠している		

技	12	能力値	A-F	成長	他修正	能力値	ボーナス	技能	Lv.	技能	Lv.
		器用度	1	25		38 + 2	6	ファイター	14		
体	12	敏捷度	6	11		29 + 2	5	スカウト	7		
		筋力	5	45		62	10	レンジャー	4		
心	8	生命力	8	18		38	6	エンハンサー	12		
		知力	14	8		30	5	フィジカルマスター	15		
		精神力	7	13		28	4				

戦闘特技			
タフネス	2122p	防具習熟S/金属鎧	IB32 p
バトルマスター	3143p		p
トレジャーハント	2120p		p
ファストアクション	2123p		p
武器習熟A/絡み	IB31 p		p
全力攻撃	IB36 p		p
武器習熟S/絡み	IB31 p		p
練体の極意	IB33 p		p
防具習熟A/金属鎧	IB31 p		p
武器の達人	IB31 p		p
斬り返し	IB36 p		p

言語	会話	読文
交易共通語	○	○
ドレイク語	○	○
汎用蛮族語	○	○

練技/呪歌/騎芸/賦術	
キャッツアイ	
マッスルベアー	
ビートルスキン	
ガゼルフット	
ジャイアントアーム	
デーモンフィンガー	
ケンタウロスレッグ	
ストロングブラッド	
リカバリィ	
フェンリルバイト	
トロールバイタル	
ヘルシーボディ	

名誉アイテム	点数
称号『彷徨せし魔竜』	50
称号『天地を食らう者』	25
専用化：レイジングヒドラ	50
専用化：ミスリルプレート	50
専用化：ブラックベルト	50
専用化：小熊の爪	50
ダークドワーフの鍛冶屋と顔見知り	100
名誉点 所持 2625 /合計 3000	

技能	基本 レベル	基本 命中力	基本 回避力	基本追加 ダメージ
ファイター	14	20	19	24
グラブラー	0			
フェンサー	0			
シューター	0			

鎧と盾		必要 ランク 筋力 回避力 防護点			
鎧	ミスリルプレート+1		27	-2	13
盾					
その他補正(防具習熟/回避行動 etc)					3
回避技能	ファイター	合計値	17	17	

武器	用法	必要 筋力	命中 修正	命中力	C値	追加 ダメージ	威力	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
レイジングヒドラ <small>「絡み・絡み」を発生させている場合、絡みダメージで攻撃可能。その時、命中判定は自動成功。イグナイト加工。</small>	2H	20	1	2d+ 22	10	27	55										
グレートソード <small>生来の魔剣</small>	2H	24		2d+ 20	10	24	34										
				2d+													

一般装備品	(消耗チェック)
○消耗品	○□□○□□
魔晶石 (3点) x100	○□□○□□
魔晶石 (3点) —— 収納用x50	○□□○□□
	○□□○□□
バルバロス携帯品セット	○□□○□□
穢れの手枷	○□□○□□

	○□□○□□
	○□□○□□
	○□□○□□
	○□□○□□
	○□□○□□
所持金	10800 G
預金・借金	G

制限移動	通常移動	全力移動	回避	防護点	HP
3 m	31 m	93 m	2d+ 17	17	100
魔物知識/弱点	先制力	生命抵抗	精神抵抗	MP	
2d+ 0/X	2d+ 12	2d+ 21	2d+ 19	30	

魔法技能	Lv.	魔力	魔法技能	Lv.	魔力

装備品	説明
頭 決死の鉢巻	戦闘特技《捨て身カウンター》が使える
耳	
顔 濃き樹の木のウィンドブレイクガジェット	
首 熊王の牙	マッスルベアーの効果+1
背中 サーマルマント	
右手 宗匠の腕輪	
腰 ブラックベルト	
足 跳躍の羽	飛んでいるものに強くなる
その他 小熊の爪	マッスルベアーの効果+1

装備品	説明
左手 疾風の腕輪	

その他メモ	自動失敗 チェック
「アアアッ、アア、ア…… カミ、マケン、イグニス。下らない、下らない」 「ダルクレム、ライフォス、キルヒア。始まりの神々、いずれも尽くさずべし……」	□□□□⑤
神も、魔剣も、全てを等しく否定するドレイク。誰の、どの思想とも決して相容れる事はない。 種々平凡な、ドレイク一族の中であって、生まれつきの「異端者」は、余りにも危険過ぎる。 彼を恐れた一族の者らに襲撃を受け、しかし情けからか、殺される事はなく… 地下に幽閉された。	□□□□⑩
手枷を嵌められ、目を塞がれ、口を閉ざされた彼の中に根差すものは、あらゆるものへ対する憎しみ。 魔剣と神々、そして一族への怒りを募らせながら、地下に幽閉されたまま、非常に長い時を過ごした。	□□□□⑮
…もはや、一族が彼の存在を忘れた頃だったのだろうか。「誰か」が、地下に居る彼を解放してしまった。	□□□□⑳
	□□□□㉕
	□□□□㉙